8 家　庭　科

植　田　順　子

1　自立に向かう子どもたち

家庭科教育は，家庭生活を中心とする人間の生活を総合的にとらえて，それを創造し発展させる人間の育成を目ざしている。

現在，様々な社会の変化に伴い，家庭生活の形態や，家族そのものに対する価値観が多様化してきている。このように，たえず変化する社会の中では，その変化に主体的に立ち向かい，自ら学び続ける力が必要である。また，生活に対するいろいろな情報が氾らんしているため，自分にとってほんとうに価値あるものを見つけ，それを生活に生かしていく力が問われてくる。

また，家庭科の最終的なねらいである，「家族の一員として家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる」ためには，まず自己の生活の自立が必要である。

従って，そういう力をつけるためには，生活に対する自分なりの考えをもち，実践できることが必要である。いいかえれば，“自立に向かう子ども”を育てなければならないということになるであろう。

これらの視点から，家庭科における目ざす子ども像をまとめると，次のようになる。

○自分なりの考えをもち，それを表現したり実践したりすることができる子ども
○自分の生活を楽しみながら，それをよりよいものへと創造していく子ども
○他との関わりをもち，友だちや家族の思いを大切にできる子ども

2　「豊かな感性を育む」研究の成果と課題

- 学習のステップを構築し，ステップごとの支援の手立てを具体的に考え，まとめることができた。
- 新しい視点からの学習として，消費者教育について，子どもの生活の身近なものの中からの題材に取り組んだ。
- アンケートや自分の生活の観察化などによって，自分の生活の中の課題を見つけることはできたが，学習したことを，生活の中に生かして実践するところまでは，なかなか進まなかった。
- 個々の題材がひとつの領域に限られた内容で構成されているものが多いので，子どもたちが，自分の生活を総合的にとらえることができにくい面があった。

3　自立に向かう子どもを育むための授業づくり

このような経緯をふまえた上で，家庭科における「自立に向かう子ども」を育むための授業づくりに大切だと思われる点を，次のようにまとめてみた。

(1)　題材開発について

「被服」，「食物」，「家族の生活と住居」の3領域を独立させるのではなく，それらを相互にからませた題材を設定することによって，子どもたちが，自分の生活を総合的にとらえることができるようにする。また，子ども一人一人の思いや願いを生かし，子どもの生活経験に応じた題材を工夫する。

(2)　体験的学習を取り入れる

現在の子どもたちは，生活経験が乏しい傾向にある。従って，実際に自分の手を動かし，体を動かして体験してみることが大切である。これは技能面だけではなく，思考面でも同じことがいえる。つまり，実感を伴った学習が必要なのである。その中で，子どもたちは試行錯誤を繰り返しながら，学習を深めていくことができるといえる。また，直接体験が難しい場合は，擬似体験をしてみるなど，体験の方法も工夫する必要がある。

(3) 学び方を学ぶ

学習は，学校に行く間だけ行うものではないという生涯学習の視点から，まずは自分で課題を見つけ，それを自ら追究していく力が必要である。そのためには，単に知識や技能を身につけるのではなく，自分で学習していく力，自己決定する力などが問われてくる。そういう力を育むために，一人学習や課題別の調べ学習などの学習場面を設定し，その学習を適切に評価していくことが必要であると思われる。また，教師ができるだけ前面に出ず，ときには思い切って子どもにまかせてみることも必要なのではないだろうか。

(4) 自分の生活に生かす

まずは，自分の生活を見つめる機会をできるだけ多く設け，その中から課題を見つけることができるようにする。そこから自分のめあてをもち，学習を深め，最終的には，学習したことをまた自分の生活にかえして生かしていくことができるようにする。そのためには，実践を呼びかけるのみで終わるのではなく，実践カードを作って実践したことを交流し合ったり，家庭に協力を呼びかけたりして，子どもたちが実践への意欲をもつことができるようにする。また，子どもの生活からかけはなれたものではなく，無理なく生活に取り入れていくことができるような題材を選ぶことも大切である。

(5) 個の確立と友だちとのかかわり

一人一人の考え，よさを大切にする。友だちのよさに気づくためには，まずは自分をよく知り，自分の考えをもつことが必要である。また一人一人のよさは，他のよさとかかわることによって，はじめてよさとなる。子どもたちが自分のよさに気づいてそれを出し合い，友だちとのかかわりを大切にする中で，よりよい価値へと高まっていくことができると思われる。

4 今後の研究の方向性

○たえず変化する社会に，主体的に対応することのできる力をつけるために，自ら学び続ける姿勢を身に付けることと，学び方を学ぶことのできる授業を考えていかなければならない。

○自立に向かうためには，個の確立と他とのかかわりとの両方が大切である。この二つをバランスよく組み込んでいくことのできる学習にする。

○教育内容のスリム化の視点から，次の点に取り組んでいきたい。

- 家庭生活を中心とする生活全体を総合的にとらえ，「被服」，「食物」，「家族の生活と住居」の3領域の関連，統合を図った題材を開発する。
- 他の教科との関連を明確にし，総合的な学習を行うことができるようにする。
- 学校で学習したことを，家庭にかえしていくことができるように，できるだけ各家庭との連携をはかるようにする。